

木材活用委員会



副会長
三谷 州平



委員長
西下 文平

木材活用委員会は「第27回木材活用コンクール」を開催し、応募総数157作品の中から受賞作を決定することが出来ました。多種多様な木材活用作品を応募して頂いた全ての皆さま、厳正な審査を行って頂いた審査委員会の皆さま、ご後援団体・ご協賛企業の皆さま、その他お関わり頂いた全ての皆さまに感謝を申し上げます。

本年度の委員会活動では島田会長のスローガン「結」、そして会長所信の中にある「日本木青連で心を高め、経営を伸ばしましょう！」に沿った活動を行いました。本会会員の大部分を占める地域製材・材木店を取り巻く状況は今も、そして未来も大変厳しいのが現実です。その中で例えば本年、新たに審査員としてお迎えしたJBN・全国工務店協会様との連携をはじめ、このコンクールを通して地域の材木屋が地域の工務店を廻り、意見を交換し、新しい木材活用の未来を切り開ききっかけになってくれれば幸いです。

また、日々の委員会活動では多くの仲間を支えて頂きました。最初にお会いした宮崎で組織図を頂きチームビルドの大切さを教えて頂いた三谷副会長、常に助言と優しい励ましを頂いた渡辺前年度委員長、明るい司会と運営・受賞者対応をして頂いた事務局の江藤さん・持永さん、ゼネコン説明会など新たな広報を模索して頂いた広報渉外部の堀本さん・砂田さん、的確な資料をまとめて頂いた審査表彰部の藤井さん・浜田さん・尾崎さん、審査会・全国大会の運営をして頂いた式典部の河窪さん・大森さん、その他あげれば足りないほど多くの方のご協力によって事業が行えました。改めて感謝申し上げます。



第27回木材活用コンクール

- 主催 / 日本木材青壮年団体連合会
- 後援 / 農林水産省、国土交通省、(公財)日本住宅・木材技術センター、(一社)全国木材組合連合会、(公社)日本建築家協会、(一社)日本建築学会、(一社)日本インテリアプランナー協会、(公財)日本デザイン振興会、(公社)日本建築士会連合会、(一社)日本建築士事務所協会連合会
- 協賛 / (一社)JBN・全国工務店協会 JKホールディングス株式会社
- 審査日 / 令和6年3月9日(土)
- 会場 / 株式会社内田洋行

審査委員長	深尾 精一 [首都大学東京(現東京都立大学)名誉教授]	
審査委員 ※審査会時点	有馬 孝禮 [東京大学 名誉教授]	藤田 香織 [東京大学大学院 教授]
	加藤 昌之 [株式会社 加藤設計 代表取締役]	土居 隆行 [林野庁 木材産業課 木材製品技術室長]
	古久保英嗣 [公益財団法人 日本住宅・木材技術センター 理事長]	原田 佳道 [国土交通省 住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室長]
	霜野 隆 [一般社団法人 日本インテリアプランナー協会 顧問]	大野 年司 [一般社団法人JBN・全国工務店協会 会長]
	松井 郁夫 [株式会社 松井郁夫建築設計事務所 代表取締役]	島田 直政 [日本木材青壮年団体連合会 会長]

第27回木材活用コンクール 審査委員長 総評



首都大学東京
(現東京都立大学)
名誉教授
深尾 精一

第27回木材活用コンクールは、昨年の数に近い157件の作品に応募して頂きました。ウッドショックの影響も残る中、多くの応募があったことは素晴らしいことでした。応募の内訳は、第一部門50作品、第二部門59作品、第三部門27作品、第四部門21作品となりました。応募していただく作品のレベルは年々高まってきており、今年も素晴らしい応募作品が揃いました。非住宅・店舗等の作品が増えてきており、木材活用の裾野が広がってきていると感じております。

その中から今回は19件の作品が20の賞を受賞しました。コンクールの主旨に相応しい、木材の「活用」に焦点を置いた作品を選ぶことが出来たと考えております。

建築作品に関しては、今年も様々な木材活用方法が示されました。今回より創設された最優秀大賞・内閣総理大臣賞には、「徳島県新浜町団地県営住宅2号棟」が選ばれました。この建築は、現し木造4階建ての共同住宅であり、国産木材による柱梁構造で建設されています。共同住宅への木材利用の画期的事例として高く評価されました。農林水産大臣賞を受賞した「睦モクヨンビル」は、木造4階建てビルであり土台、柱、梁の躯体全てが一般製材で構成され、それらが「あらかし」の意匠を実現させており、意欲的な空間構成と合わせて高く評価されました。国土交通大臣賞には、CLTを用いた新たな構法などの技術開発と、その結果としての豊かな共同住宅の空間が評価された「江北小路」が受賞しました。

また今回設けられた、木材を用い様々な人の力を結合させた作品を表彰する「ウッド・コンビネーション賞」、そして、木材活用への取り組み、コミュニティー・行政等を巻き込んだ活動を表彰する「ウッド・ムーブメント賞」についても、それぞれふさわしい作品を選ぶことができ、賞を設けた意義があったと考えております。

受賞作品の第一部門から第四部門までの内訳は、8・7・3・2作品となり、第二部門の健闘が光りました。今回より「一般社団法人JBN・全国工務店協会」に審査委員会に加わっていただき、賞を新設していただいたことも、第二部門への意欲的な作品が多くみられたことの要因であったと考えております。今後も、よりレベルの高い作品が多数応募されることを期待いたします。

最優秀
大賞

内閣総理大臣賞



photo:Yohei Sasakura

徳島県新浜町団地県営住宅2号棟

講評 現しの木材を用いた軸組構法によって4階建ての公共集合住宅を実現した、極めて意欲的な作品である。330mm角の柱梁が力強い立面を構成しており、室内にも木材がふんだんに用いられている。木材調達にも地域の林業に配慮しつつ適材適所の選択が行われている。

最優秀賞

国土交通大臣賞



江北小路

講評 木造住宅密集地域の解消のための移転先共同住宅を、新しい木材活用手法で建設した事例である。鉄骨と組み合わせた床の構法などに特徴があり、共用部分の造り方なども優れた集合住宅の設計となっている。

最優秀賞

農林水産大臣賞



睦モクコンビル

講評 田の字型プランを中央に吹き抜けを持つように放射状に拡大し、四階建ての四つの空間を製材の柱梁で構成した、意欲的な建築である。吹き抜けを中心とする内部は、木材仕上げが溢れた空間である。用途も、コワーキングスペースやステイルームなど、現代的なものとなっている。

優秀賞

林野庁長官賞



岡山大学共育共創 commons (OUX: オークス)

講評 地域産業であるCLTを活用し、新たな技術で用いることにより、講義室等に求められる大スパンを実現した建築である。市松状の壁・大断面の梁・巨大な庇などが、力強い木材の立面を創り出している。

優秀賞

(公財)日本住宅・
木材技術センター
理事長賞



昭和学院小学校ウエスト館

講評 既存の校舎に増築する形で造られた校舎であるため、階高を抑えることが求められる中、CLTを直交方向に重ねることによりフラットスラブを実現した学校建築である。軒先の処理や階段の構成などにも、CLTの特性が活かされている。

優秀賞

(一社)日本インテリア
プランナー協会賞



肉割烹 奥

講評 木材の様々な組み合わせによって、木の香りに包まれた魅力的な空間を生み出している飲食店のインテリアである。古いビルの倉庫と機械室をリノベーションした空間であることも評価できる。

優秀賞

(一社)全国木材組合連合会
会長賞



Toyota Technical Center Shimoyama 環境学習センター

講評 森林環境の維持を目指し、地域の小径木を巧みに用い、複雑な立体トラスを構成したり、材をずらして継ぐことによる大スパンを実現した建築である。木材を活用した空間が見事に作り出されている。

優秀賞

(一社)JBN・
全国工務店協会会長賞



剛な天井

講評 家族の歴史を重ねた農家の住宅のリノベーション事例であるが、欄間の高さの位置に、LVLと合板による格子状の水平構面を構築することによって、耐震性能を向上させている。省エネ性能の向上にも力を注ぎ、古い部材を意匠的にも活かしている。



ぶどう農家の家

講評

ぶどう畑の棚柱などをモチーフに、透明感のある柱梁構造で特異な立面を造り出した住宅である。垂木を現しにしたリビングの空間などにも、木の質感が強く感じられる建築となっている。



戸塚の社屋

講評

300mm角の太い製材の柱にピン接合によるトラスを組み合わせることで、合成ラーメン構造を造り出した中規模の事務所ビルである。室内には構造の木材が現しになり、開放的な空間が造りだされている。



立命館アジア太平洋大学 Green Commons

講評

鉄骨造の教室棟の間に、交流空間としての大きな架構を、燃え代設計のラーメン構造で造り出した建築である。大部分の木材を、FSC認証を取得した地域産のスギ材としていることも評価できる。



愛媛県立新居浜病院

講評

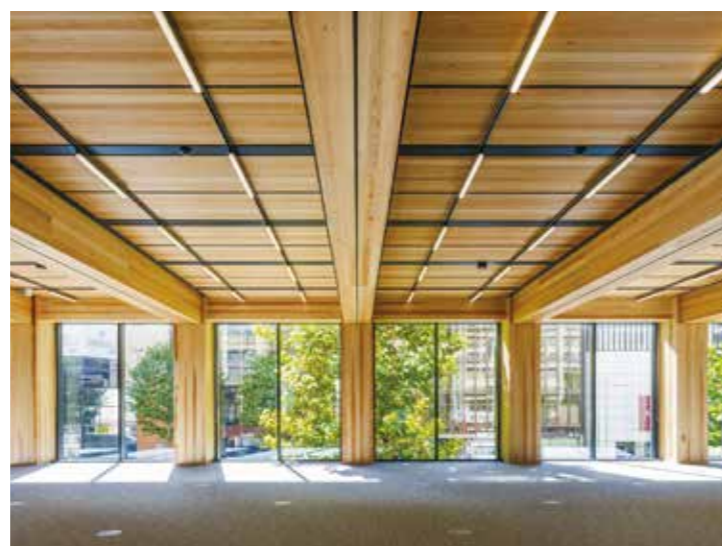
地域の医療を担う中核病院のアプローチとエントランスを、県産材を用いて大胆に構成した作品である。鉄骨を木材で被覆したY字型の柱と、それによって支えられているスギ材の三角格子の天井がランドマークとなっている。



野村不動産 溜池山王ビル

講評

燃え止まり層を持つ柱梁や、鉄骨を内蔵する梁など、建設会社によって開発された手法を用いた9階建てのオフィスビルである。CLTをRCスラブの型枠として用いるなど、適材適所で木材を活用した建築である。



波のカウンター

講評

リゾートホテルのフロントカウンターを、波状に切り出した板材をずらしながら重ねることにより、受付を行う広い面を構成するとともに、その下の蹴込の部分を作り出すという、機能的にも意匠的にも優れたアイデアである。



木質開拓賞
(日本木材青連会賞)

睦モクヨンビル

講評

田の字型プランを中央に吹き抜けを持つように放射状に拡大し、四階建ての四つの空間を製材の柱梁で構成した、意欲的な建築である。吹き抜けを中心とする内部は、木材仕上げが溢れた空間である。用途も、コワーキングスペースやステイルームなど、現代的なものとなっている。

※農林水産大臣賞を同時受賞



木材活用賞

鏡瀬ビジターセンター

講評

五島列島の観光のためのビジターセンターと、地域の交流拠点としての施設を、木材による架構で実現した建築である。水平力は鉄筋コンクリート部分に負担させることにより、眺望を重視した開放的な構成となっている。



木材活用賞

神戸市中央区役所・中央区文化センター

講評

文化交流機能を併せ持つ区役所のファサードを、環境調整機能を持たせた彫の深い構成とし、そのスカイデッキの軒天を県産材で仕上げた印象的な建築である。内部にも、各所に地域産材が用いられている。



木材活用賞

SHELL × SHELF

講評

24φという細い木材の丸棒を、HPシェル状になるように棚板を貫通させ、自立させるとともに、本を立てることのできるシェルフとした、アイデアに溢れた作品である。奈良県産のヒノキが用いられている。



ウッド・ムーブメント賞

金山ウッドシティビル

講評

名古屋の都心部の二本の幹線鉄道沿いに作られた、木造の中規模テナントビルである。CLTの耐力壁を120mm角の柱梁に組み合わせ、汎用工法となるとともに、周辺に面的に展開されることを狙っている。



木材活用賞

横浜共立学園 中学校・高等学校 本校舎改修計画

～横浜山手で90年続く
歴史を継承する心の故郷と
なる木造校舎～

講評

築90年の木造校舎を、次世代に継承するために、巧みな耐震補強を行い、木造の空間をできる限り活かした改修事例である。横浜市の指定有形文化財であり、たいへん丁寧な改修計画となっている。

